

令和6年11月13日

報道関係者各位

独立行政法人国立科学博物館

企画展「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」 開催及び報道内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（館長：篠田 謙一）は、2024（令和6）年11月26日（火）から2025（令和7）年3月2日（日）までの期間、下記のとおり、企画展「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」を開催いたします。

また、本展の開幕に先立ち **11月25日（月）17時から18時30分の間、別添のとおり報道内覧会を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。**

貝類は食料としてだけではなく、装飾品などの素材として、人類の生活を支えてきました。そして現代においても、さまざまな形で人々の生活や文化を彩り続けています。貝類の持つ生物学的な特性や多様性は、古代より私たちに魅了してきたのです。本展では、その奥深いシェル・ワールドのエッセンスを紹介いたします。

広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。



ミジンワダチガイ
（所蔵：国立科学博物館）

記

【企画展名称】 企画展「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」

【開催場所】 国立科学博物館（東京・上野公園）

日本館1階 企画展示室及び中央ホール

【開催期間】 2024（令和6）年11月26日（火）～2025（令和7）年3月2日（日）

【開館時間】 9時～17時

※入館は閉館時刻の30分前まで

【休館日】 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）、12月28日（土）～1月1日（水・祝）

※ただし12月23日（月）、2月17日（月）は開館

【入館料】 一般・大学生：630円（団体510円）、高校生以下および65歳以上：無料

※本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上

※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください

<https://www.kahaku.go.jp/>

【主催】 国立科学博物館

【協力】 赤星直忠博士文化財資料館、浦河町立郷土博物館、鹿児島県立埋蔵文化財センター、きしわだ自然資料館、東京大学総合研究博物館、鳥羽市立海の博物館、豊橋市自然史博物館、萩博物館、目黒寄生虫館、横須賀市自然・人文博物館

【展示概要】 別添の本展チラシ参照

【お問合せ】 国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9840, 9883, 9887 FAX：03-5814-9898 E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

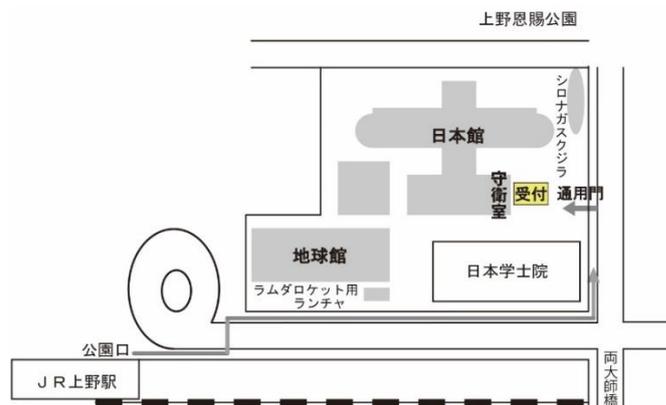
企画展
「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」
報道内覧会のお知らせ
2024(令和6)年11月25日(月)17時～／国立科学博物館

国立科学博物館では、企画展「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」の開幕に先立ち、下記のとおり報道内覧会を実施いたします。

当日は、本展監修者による展示解説を行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

記

- 【日 時】 2024(令和6)年11月25日(月)
17時～18時30分(受付開始 16時30分～)
- 【会 場】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)
日本館1階 企画展示室及び中央ホール
- 【受付場所】 日本館1階守衛室前 ※下記地図の通り通用門からお入りください
- 【アクセス】 JR上野駅公園口から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅7番出口から徒歩10分
京成電鉄京成上野駅から徒歩10分
※駐車場及び駐輪場の用意はございません



【当日のスケジュール】

- 16時30分～ 受付開始(受付場所：日本館1階守衛室前)
17時～18時30分 報道内覧会

※17時から約30分間、本展の監修をした国立科学博物館の研究者が展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします

【お申込み方法】

報道内覧会に参加を希望される方は **11月21日(木)17時まで**に、以下必要事項を記載の上、国立科学博物館企画展担当 kikakuten@kahaku.go.jp あてメールにてお申込みください。

- ・ 件名：企画展「貝類展」報道内覧会申込
- ・ お名前
- ・ ご所属
- ・ 緊急連絡先(携帯電話番号)
- ・ メールアドレス

※代表者の方がまとめてお申込みをされる場合も、すべての参加希望者について、上記の必要事項をご記入願います。

上記アドレスより折り返しのメール連絡をもって受付完了とします(概ね3日以内にお返事します)。迷惑メールの設定などをされている場合は、受信できるようにご設定ください。

※いただいた個人情報は、報道内覧会以外の連絡には使用しません
厳重に管理し、報道内覧会終了後、1ヵ月以内に破棄いたします

【本展監修者】



動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ 研究主幹 長谷川 和範(はせがわ かずのり)

専門分野は腹足類(巻貝)の分類学。物心ついた頃から、貝は私の心の中で大きな存在でした。その魅力を改めて見つめ直そうというのが、今回の企画展の出発点です。研究対象や食材としての魅力はわかりやすいものの、掌の中で貝を愛でる時の幸福感を説明するのはやはり困難です。生物の適応進化の産物が、なぜこれほど心をとらえるのか、その謎は深まるばかりです。



地学研究部 環境変動史研究グループ 研究主幹 芳賀 拓真(はが たくま)

専門分野は貝を用いた進化古生物学、軟体動物学。なぜ魅せられるのか。貝歴38年になっても未だわかりません。強いて言えば、想像を超えた形の多様さでしょうか。貝を見れば脊髄反射的?に手がでるし、夢の中で「煌びやかな夢の貝」を採集しています。でも、凄く惹かれるのはチシマガイやイジケガイ。あのなんとも言えない形に、求めている答えがありそうです。



人類研究部 人類史研究グループ 研究員 森田 航(もりた わたる)

専門分野は歯の人類学。人類学を研究する者にとって貝の大きな魅力の一つは、日本の酸性土壌から縄文人のような貴重な古人骨資料を守ってくれることです。後世の子孫に自身の姿や生活がタイムカプセルのように伝わることを期待していたわけでは無いかもかもしれませんが、貝に囲まれて死後埋葬されることを望むほどに縄文人も貝に魅了されていたのではと想像しています。



動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ グループ長 齋藤 寛(さいとう ひろし)

専門分野は軟体動物(主に有棘類)の分類学。子供の頃、近所の路地の植木棚に、風雨にさらされて白っぽくなったサザエやアワビの貝殻が置かれていたことを覚えています。私の経験を基にするのは根拠薄弱ですが、そんなありふれた貝の、しかも色彩の乏しい貝殻を覚えているということを考えると、ひとを魅了する最大の要因はその形ではないかと思えてきます。



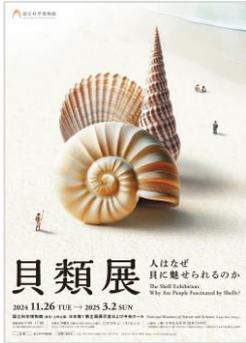
地学研究部 環境変動史研究グループ グループ長 重田 康成(しげた やすなり)

専門分野はアンモナイト学。大自然の中、地層をハンマーでたたくと、美しい螺旋をもつアンモナイトが顔をのぞかせます。タイムカプセルを開けた瞬間です。なかには虹色に輝くアンモナイトもあります。はるか昔に絶滅したアンモナイトは私に何を語ってくれるのか、そのワクワク感がたまらない。

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「各種手続き・報道関係資料」→「写真の貸出」からお申込みできます。
(<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



①企画展「貝類展：人はなぜ貝に魅せられるのか」ポスター



②ミジンワダチガイ
(所蔵：国立科学博物館)



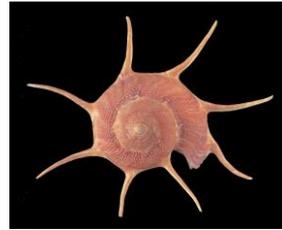
③*Pelecogyra fezouataensis*
(所蔵：国立科学博物館)



④メオトヤドリナ
(写真：国立科学博物館)



⑤マボロシハマグリ
(画像：国立科学博物館)



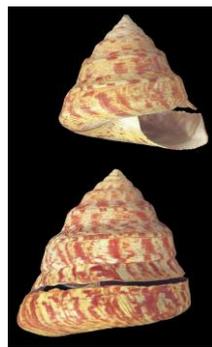
⑥ハリナガリンボウ
(画像：国立科学博物館)



⑦貝輪(ゴホウラ)
(所蔵：国立科学博物館)



⑧貝合わせ(ハマグリ)
(所蔵：国立科学博物館)



⑨アダソンオキナエビス
(画像：国立科学博物館)



⑩ウミノサカイエモ
(画像：国立科学博物館)



⑪ますほの小貝(チドリマスオ)
(写真：国立科学博物館)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介目的のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は、確認のため、下記担当まで校正原稿をお送りください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈お問合せ先〉 国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当
電話 03-5814-9840, 9883, 9887 FAX 03-5814-9898
E-mail : kikakuten@kahaku.go.jp 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20



貝類展

人はなぜ
貝に魅せられるのか

The Shell Exhibition:
Why Are People Fascinated by Shells?

2024 11.26 TUE → 2025 3.2 SUN

国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室および中央ホール National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

開館時間 9:00-17:00

休館日 月曜日 (月曜日が祝日の場合は火曜日) 12月28日(土) - 1月1日(水・祝)

入館料 一般・大学生 630円 (団体 510円)

※入館は閉館時刻の30分前まで

※ただし12月23日(月)・2月17日(月)は開館

※常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上 ※高校生以下および65歳以上は無料

主催

国立科学博物館

お問い合わせ

TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル) FAX 03-5814-9898 <https://www.kahaku.go.jp/>

貝類展

人はなぜ貝に魅せられるのか

貝類は食料としてだけでなく、装飾品などの素材として、人類の生活を支えてきました。

そして現代においても、さまざまな形で人々の生活や文化を彩り続けています。

貝類の持つ生物学的な特性や多様性は、古代より私たちを魅了してきたのです。

本展では、その奥深いシェル・ワールドのエッセンスを紹介します。

序章

貝類の世界

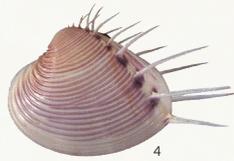
貝類とは、無脊椎動物の一群である軟体動物の中で、炭酸カルシウムの殻をもったものを指すことが一般的ですが、広い意味では貝殻をもたないものも含まれます。地球上に繁栄する貝類は、どのように誕生し、発展してきたのか。ここではまず貝類の進化の道筋をみていくとともに、その驚くべきサイズの多様性についても紹介します。



第1章

貝類の多様性の成り立ち

地球上に10万種以上存在するといわれる軟体動物は、体のおおまかなつくり(体制)だけでなく、生息環境や生態、貝殻の形態など、さまざまな面で著しく多様性に富んでいます。貝殻を失う方向に進化した貝類もあります。ここでは、まず軟体動物の全体像を示し、そしてさまざまな角度から多様性とその要因についてみていきます。



第2章

人類と貝類の長い関わり

— 先史時代～現代

人類と貝類の関わりは先史時代から今日に至るまで続いています。食料が乏しい時期には、貝類は人類の生活を支える安定した食料となっていました。一方、貝殻も利器、装飾品などの素材として利用されてきました。さらには神事や遊びなどの文化にも関わるようになるなど、単なる天然物を超えた存在となっています。



第3章

人類と貝類の深い関わり

— 貝に魅せられた人々たち

現代における究極の人類と貝類の関わりは、貝殻のコレクションといえるでしょう。標準化が容易で、長い年月にわたって保存が可能な貝類は、生物コレクションの代表的なものとして多くの人たちを惹きつけてきました。ある地域の種をすべて集めることを目指したり、特定の分類群に専念したり、関わり方はさまざまです。



第4章

貝類とこれからも長く関わり続けるために

人類と貝類には長く深い関わりがありました。そして現在、状況は大きく変わりつつあります。たくましく地球上で発展してきた貝類も、近年の環境の改変や地球規模の変動の影響を受けています。食をはじめとした人との関わりにも変化がみられます。ここでは、現在の状況を把握し、未来に思いを巡らせます。



アクセス

JR「上野」駅(公園口)から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅(7番出口)から徒歩10分
京成線「京成上野」駅(正面口)から徒歩10分
館内に駐車場および駐輪場はございません

〒110-8718
東京都台東区上野公園 7-20
ハローダイヤル: 050-5541-8600
※詳細はホームページをご覧ください。



序章	1. ミジンワダチガイ 2. <i>Pelecogyra fezouataensis</i>
第1章	3. メオトヤドリニナ 4. マボロシハマグリ 5. ハリナガリンボウ
第2章	6. 貝輪(ゴホウラ) 7. 貝合わせ(ハマグリ)
第3章	8. アダンソンオキナエビス 9. ウミノサカエイモ
第4章	10. ますほの小貝(チドリマスオ)